



## 町おこしの元祖・深川六助 ～大正時代の町づくりが今日に生きる～



大隈重信からの感謝状

これまで何度となく館報で紹介してきた深川六助さんですが、このほど、神戸市在住の星野鐘雄さんより祖父・六助さんに関する新たな資料を寄贈していただきました。

深川六助さんは明治5年2月1日、白川の窯焼き常・セイ夫妻の二男として生まれました。明治20年1月、当時の文部大臣森有礼が有田小学校を訪れました。すでに初等教育は終えていた六助さんでしたが、在学中からその神童ぶりが際立っていたものと思います。これまた名校長として名をなしていた江越礼太先生の推薦により、選抜生として上京し、森有礼家の書生となって美術学校(現在の東京藝術大学)に通学することになりました。

しかし、明治22年2月11日、大日本帝国憲法発布当日、まさにその式典へ向おうとした森文部大臣は暴漢に襲われ、翌日死去。六助さんは森家を離れ、親類の田代市郎次が経営していた横浜の田代商店に入り、有田焼の販売に従事しました。横浜時代の六助さんは、明治38年に開催された米国セントルイス博覧会に、農商務省嘱託の視察員として出張しています。

横浜時代に会津出身のキヨさんと結婚。すでに洗礼を受けていたキヨさんの影響もあってか、六助さんも受洗しています。横浜で長男を授かりますが、2歳で死去しています。その悲しさを抱えて、さらには自分自身の病を癒やすためにキヨさんと共に明治41年に有田へ帰郷した六助さんは、泉山・年木谷に住まいを構えます。そこで自宅を開放し、キリスト教の日曜学校を開設しています。

大正4年に白川へ転居し、同8年に幼稚園を開設。このころ、石場組合の事務長に就任し、さらに大正6年、徳見知敬氏や中島浩気氏らと共に、有田焼創業300年として陶祖李参平の記念碑建立を計画し、翌7年5月、陶山神社裏手の中腹に完成しました。この折、陶祖李氏頌徳会が組織され、名誉総裁に大隈重信が就任しました。その折の感謝状が頌徳会理事を務めた深川六助さんに渡

されています。(写真上)

また、現在の陶器市のアイデアも彼の発案によるものです。それまで黒髪山を中心とした札所めぐりの遍路相手に商品の売れ残りやキズものを店先に並べて小遣いかせぎをしていたのですが、これをヒントに業界全体の行事にして「陶器市」と銘打ったならば町おこしになると、実施を危ぶむ周囲の人々を説得して、若者を中心に駅までの無料運搬や福引などを行って盛り上げて行きました。

病を抱えながら、有田町議会議員、西松浦郡議会議員を経て、佐賀県議会議員を歴任。しかし、無理がたたったのでしょうか、大正12年2月の佐賀県参事会に出席の帰途、風邪を煩い、その後肺炎を併発し、3月5日に死去しました。享年51。葬儀の様子の写真も今回の寄贈資料の中にありました。



白川で行われた葬儀の様子(右端に棺がみえる)

大正時代の有田にあって、有田町や有田焼業界の更なる発展のために、多くのアイデアを考案し実施していった六助さんですが、それらに対する反対や批判も多かったようです。しかし、我が身を削って尽力した彼の功績は、今の時代もなお生き続けています。

(尾崎 葉子)

# 皿 季刊 山

No.88

# 秋 2010

有田町歴史民俗資料館・館報

# 「海揚がりの肥前陶磁～海に残された有田焼」

## 開催しました



開会式テープカットの様子



展示解説を聞く来館者

今年の企画展は、「海揚がりの肥前陶磁～海に残された有田焼」と題し、10月1日から11月30日の2ヶ月にわたって、全国各地の「海揚がりの焼き物」を展示いたしました。

初日の10月1日は、晴天に恵まれたなかで開会式を行い、その後、担当者のギャラリートークを行いました。来館者の方々は、展示している焼き物が水中にあった時の写真を見たり、実際にそれらが海から引き揚げられる様子などの話を熱心に聞きながら、時には質問の声も上がりました。また「水中考古学」という耳慣れない言葉に興味津々の様子でした。

今回の企画展は、海と船の博物館ネットワーク事業の助成を受けて、アジア水中考古学研究所と共催で行いました。昨年の企画展では、筑前岡垣浜で採集された陶磁器を主に展示しましたが、今年はそれをさらに日本全国に広げ、北は北海道から南は鹿児島まで、現在確認されているほぼすべての「海揚がりの焼き物」を紹介しました。

また、恒例となりつつある、資料館紅葉ライトアップと夜間開館も有田町役場有志の協力を得て、11月20日（土）、21日（日）に行いました。20日は午後から、2回目のギャラリートークを行い、例年以上のたくさんの方に来館していただきました。

期間中、来館者の方からは、「海揚げりという言葉にロマンがある」、「他では見たことがない企画で、大変興味深かった」などのありがたい感想をいただき、改めてご協力いただいた関係者の皆様にお礼を申し上げます。

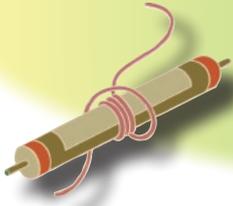
水中考古学については、現在も研究がすすめられ、新しい発見が期待されています。そのときはまた、当館にて紹介したいと思えます。

## 来館者の声



ライトアップされた資料館の紅葉

- ・有田焼が広い範囲で流通していたことをあらためて実感しました。  
(小城市 T)
- ・歴史について、奥深い有田焼に、あらためて感動しました。住民としてもっと勉強していきます。  
(有田町 女性)
- ・大変興味ある展示企画。もっともっと深く知りたい。各地の歴史と陶磁器とのつながり。岡垣浜で何故こんなに多くの出土（漂着）があるのか？ 知りたい。  
(東京 U)
- ・直に陶片にさわられて感激！「海あがり」に昔からロマンを感じて：憧れていました。海上貿易の壮大さにじーんときました。  
(倉敷市 女性)
- ・海揚がりの陶磁器の多さにびっくりしました。直に陶片に触れて違いが分かりました。  
(神崎市 S夫妻)
- ・沢山の焼き物が海の上の船で運ばれていたことが窺えます。添田さんの陶磁器採集資料は素晴らしいと思いました。  
(今井一)
- ・とにかく感動しました。また来たいです。海の底にたくさんの焼き物が沈んでいたなんて知りませんでした。たくさん焼き物に触れて楽しかったです。  
(有田小学校6年生 9名)
- ・岡垣浜の陶片の山、驚きました。  
(匿名)
- ・陶磁器大変参考になりました。有難うございました。  
(匿名)
- ・海のことを知れておもしろかったです。遺跡という言葉は人を興奮させてしまうようです。  
(I)



# 「新有田郷図 内山編」完成しました

## 有田皿山ば 歩こう隊 活動報告

昨年11月から本格的な活動を始めた「150年前の有田皿山ば 歩こう隊」ですが、このほど1年目の活動を終わりました。その成果として、「新有田郷図 内山編」が完成しました。



完成した「新有田郷図 内山編」と「覚書 其ノ壺」

この活動は「花王コミュニティミュージアム・プログラム2009」の助成を受け、有田町歴史民俗資料館とNPO法人アリタ・ガイド・クラブが協働で行ったもので、町内外から小学生から80代の方々まで、60数名の参加を得ました。

今回は内山地区を泉山隊、大絵本隊など5つのグループに分け、それぞれ10数名の隊員の都合の付く日を決めて地区内を歩きました。

歩くことで150年前にはあったが現在は道や川、神社や窯跡などを確認し、地図に落とししていく作業が続きましたが、参加者の方は「長年有田に住んでいたけれど初めて来た」とか、有田焼に功績のあった人物の墓地が少々荒れているのを見て「次回は掃除道具を持参してきれいにしよう」と様々な感想を抱きな



「新有田郷図」を手に「歩こう会」の様子



「覚書」の和綴じ製本作業風景

がら、有田の歴史の深さを実感。

最終的に有田らしさ、有田でしか出来ないものという熱い思いで、透明フィルムと紙の二枚重ねの地図を印刷し、それを丸めて留める「緒締め」も有田焼でということで、参加者が手作りしました。

さらに、地図だけではこれまでの作業で分かった事が伝わらないということで、「150年前の有田皿山ば歩こう隊 覚書 其ノ壺」を印刷し、これまた和綴じの作業も参加者で行いました。

「新有田郷図 内山編」は定価1500円で、当館や有田館、有田観光情報センターで販売中です。

### 次年度助成決定！

「150年前の有田皿山ば歩こう隊」の継続助成を申請していましたが、このほど次年度助成が決定しました。今度は有田皿山・外山編に挑みたいと思います。

興味をお持ちの方はぜひご参加ください。参加申し込みは有田町歴史民俗資料館 まで。

☎ 0955-43-2678



東京で行われた贈呈式の様子

(右：中川俊一 花王株式会社取締役常務執行役員  
左：中村貞光 アリタ・ガイド・クラブ副理事長)

## 中学生の職場体験



9月15日(水)から17日(金)まで、有田中学校生徒による職場体験が行われました。体験に来たのは2年生の篠原竜太君、久保田航成君、富村周平君、梶原己新君の4名。歴史や文化に興味があり、博物館で学芸員の仕事がしたいということでした。

初日に資料館を見学してから実際に作業を開始。今回は、主に発掘した陶片の整理作業を行いました。水洗い、注記(出土地点を割れ口に記録)、接合、実測(大きさ・形を計測して作図)、写真撮影、トレースといった専門的なことを体験しました。初めて行う作業ばかりでしたが、皆、大変熱心に取り組んでいました。

3日間という限られた時間の中でしたが、将来仕事に就く際の選択肢一つになればと思います。未来の学芸員の誕生を楽しみにしています。

企画展開催中の11月24日(水)、有田中部小学校3年生3クラス87名の子どもたちが担任の吉永先生らの引率で学校から歩いて当館まで見学に来てくれました。

すでに保護者と一緒に見に来た子もいて、友だちに展示の解説をしてくれました。一番興味を引いた展示資料は、和船の模型と参考館に展示していた福岡県岡垣浜で採集された3トンの陶片の山。「うわー、すごかー」と触れてもらうために展示していた陶片にも触って大喜びでした。

この3年生の授業では「昔の暮らし」が主目的でしたが、あいにく常設展示資料は企画展開催中、収蔵庫に入っていますので、火鉢や箱膳、箱枕など一部を取り出して、実際に触ってもらいました。

火鉢は炭に火をつけた状態で手をかざしてもらいました。この炭も、今の子どもたちは知らないかなと思いながら聞いたところ、意外といい反応。これは、バーベキューなどをする際に使用していて、子どもたちにもなじみ深いものだったようです。でも、昔の人たちは、これで冬の寒さをしのいだという事までは思いがかなかったようで、珍しそうに火鉢の回りに集まっていました。

帰りは上有田駅から電車に乗って学校へ。素晴らしい天候に恵まれて、有田の町を堪能できたのではと思います。また、来年も待ってます。

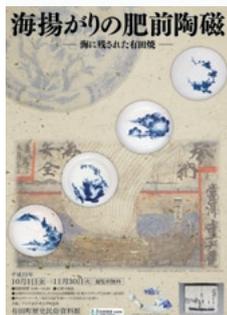
## 小学生の校外授業



## 新刊案内

有田町教育委員会では平成元年9月1日、「皿山なぜなぜ」の初版を発行しました。計画から出版まで、短期間で編集を行い、21人の執筆者には大変な苦勞を強いてしまいましたが、森田一雄公民館長(当時)によって全体的な統一感を持つ内容にまとめていただきました。当初対象とした子どもたちのみならず、大人の方にも読みやすいと好評でした。

今回、10刷り目を再版刊行しますが、20年以上が経過したことで、明らかに異なる実情など全体的な見直しを行い、全頁カラー化して近日中に発行予定です。まだ、手にしたことがないという方、あるいは再度読んでみようと思われる方はぜひお求めください。



また、企画展「海揚がりの肥前陶磁～海に残された有田焼」展の図録も好評発売中です。まだお求めでない方は有田町歴史民俗資料館までお問い合わせください。

定価 700円  
ページ数 35ページ

## 季刊『皿山』

通巻88号(平成22年12月1日)  
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1  
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185